

## (潜水業務)

- 問 1 圧力に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 真空をゼロとした圧力を絶対圧力、大気圧をゼロとした圧力をゲージ圧力という。
- (2) 潜水業務で使用される圧力計には、絶対圧力が使用される。
- (3) 同一圧力に保った気体の体積は、温度が0 から1 に上がると2/3分の1増加する。
- (4) 密閉容器内に満たした静止流体の一点に加えた圧力は、流体のあらゆる部分に伝達される。
- (5) 潜降するにつれて、体表面に加わる圧力は増加するが、その増加した圧力が体表面から内部に伝わり、身体の外部、内部で新たな圧力の平衡が起きる。
- 問 2 空気を吹き込んだゴム風船を水深2.5 mまで沈めたとき、風船の中の空気の体積は、水上のときの体積にくらべて何倍になるか。
- (1) 約1/6
- (2) 約1/5
- (3) 約1/4
- (4) 約2/7
- (5) 約2/5
- 問 3 水中における現象に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 水中にある物体は、これと同じ体積の水の質量に相当する浮力をうける。
- (2) 圧縮性のある物体の受ける浮力は、浮上に伴って減少する。
- (3) 水中の物体が実物より大きく見えるのは、水中における光の屈折効果(屈折率)のためである。
- (4) 水中における音は、毎秒約1500 mの速度で長距離まで達するので、両耳効果が減少し、音源の方向を感知できなくなる。
- (5) 透明度の低い水中でよく見える色は、蛍光性のオレンジ、次いで白、黄といった順である。
- 問 4 各種潜水方式に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) ヘルメット式潜水は、船上又は陸上のコンプレッサーから送気ホースでデマンド式レギュレーターを通じてヘルメットに送気する。
- (2) フーカー式潜水は、送気ホースを通じて送気するものであるが、ヘルメット式に比べると軽装備で呼吸ガスの消費量も少ない。
- (3) ハードハット型全面マスク式潜水器は、頭を打撲するような危険のある狭所での作業、寒冷地潜水、深海潜水などの厳しい環境下での潜水に用いられている。
- (4) 開放呼吸型スクーバ式潜水器は、潜水者の排気を海中に放出する方式の潜水器である。
- (5) スクーバ式潜水器は、開放呼吸型が一般的であるが、この他に閉鎖回路型及び半閉鎖回路型がある。
- 問 5 潜水用のヘリウム・酸素の混合ガスの特徴等に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 空気に比べ呼吸抵抗が少ない。
- (2) 空気に比べ呼吸による潜水者の体熱損失が大きい。
- (3) 空気に比べ音声の明瞭度が低下する。
- (4) 短時間の潜水や浅い深度の潜水でも、空気の場合に比べ減圧時間が短くてすむ。
- (5) ヘリウムは窒素に比べ体内から排出する速度が大きい。
- 問 6 ヘルメット式潜水における吹き上げ事故の予防方法として、誤っているものは次のうちどれか。
- (1) 排気弁が不調なとき、潜水服の袖口を広げて空気を抜くことにより、吹き上げを防ぐことができる。
- (2) 潜水深度を変えるときは必ず船上に連絡する。
- (3) 浮力が高めになったときは、直ちに排気弁を全開にする。
- (4) 身体を横にするときは、潜水服を必要以上にふくらませないようにする。
- (5) 腰バルブを使用し、送気量を調整する。

問 7 スクイズに関し、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) スクイズは、送気不足のときに起こることがある。
- (2) スクイズは、潜水墜落したときに起こることがある。
- (3) スクイズは、ヘルメット内の空気の圧力が水圧より高いときに起こることがある。
- (4) スクーバ式潜水では、通常スクイズは起きないが、急速に潜降する場合には起こることがある。
- (5) スクイズは、ヘルメットの排気弁が正常に作動せず、空気を排気し過ぎたときに起こることがある。

問 8 潜水用具に関し、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 水中電話は、ヘルメット式潜水器の場合、ヘルメット内に送受信器が取り付けられ、船上と通話できる装置である。
- (2) 水深計は、超音波により測定した水深を表示する計器で、現在の水深と最大深度を2針で表示するものもある。
- (3) 水中時計は、現在時刻を表示するばかりでなく潜水深度の時間的経過の記録が可能なものもある。
- (4) 流量計は、空気清浄装置と送気ホースの間に取りつけて、潜水者に送気されている空気の量を表示する。
- (5) 水中ナイフは、漁網などが絡みつ체가拘束されてしまった場合などに、脱出のために必要である。

問 9 スクーバ式潜水の装備に関し、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) マスクは、前面ガラス部が1面のものから4面に分割したものまでであるが、マスクと顔の密着性が重要で、ストラップをかけずにマスクを顔に押しつけて呼吸が漏れないものを選ぶ。
- (2) ドライスーツは、レギュレーターのファーストステージから空気を入れることができる給気弁と余剰空気を逃がす排気弁があるため、ウエットスーツに比べスクイズを起こしにくい。
- (3) フィンには、フルフィットタイプとオープンヒルタイプがあり、水中を移動する際の推進力を得るためと体のバランスを取るために使用する。
- (4) 潜水服のタイプやポンベの種類によって必要なウエイトの重さは異なってくる。
- (5) BCは、レギュレーターから中圧空気を取入れ10～20 kgに相当する浮力を得ることができる。

問 10 特殊な環境下における潜水に関し、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 冷たい海水中の潜水では、体温が低下し、これが人体の運動機能の低下や減圧症の発症に影響する。
- (2) 暗渠内潜水では、設備が簡単で機動性に優れたスクーバ式潜水器が使用されるが、エア切れを起こすことが多い。
- (3) 高所域での潜水では、通常の潜水と同様な減圧方法を用いた場合には、減圧不足となるおそれがある。
- (4) 汚染のひどい水域では、スクーバ式潜水は不適当であり、露出部を極力少なくした装備で、送気式潜水器を用いて潜水する。
- (5) 潮流による抵抗は、ヘルメット式潜水よりもスクーバ式潜水の方が大きい。

(送気、潜降及び浮上)

問 1 1 潜水業務の送気に使用するコンプレッサーに関し、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) コンプレッサーの圧縮効率は、吐出圧力が 0.2 ~ 0.3 MPa の範囲で最も高く、それより低圧でも高圧でも低くなる。
- (2) コンプレッサーの吐出圧力が高いほど、吐出される空気の温度が高くなる。
- (3) コンプレッサーのストレーナは、機関室外に設置する。
- (4) 空気清浄装置の清浄剤としてフェルトや活性炭が使用される。
- (5) 固定式のコンプレッサーの冷却は水冷式が、移動式のコンプレッサーでは空冷式が多く採用される。

問 1 2 吐出量 (吸込み状態に換算した吐出量) が毎分 310 の空気圧縮機から送気を受け、毎分 60 の空気を消費する潜水器を用いた場合、次のうち潜水できる最高の深度はどれか。

- (1) 25 m
- (2) 30 m
- (3) 35 m
- (4) 40 m
- (5) 50 m

問 1 3 潜水業務に用いる空気槽そうに関し、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 空気槽には、調節用空気槽と予備空気槽があり、調節用空気槽と予備空気槽が一体に組み込まれているのが一般的である。
- (2) 予備空気槽は、コンプレッサーの故障などの事故に備え、浮上に必要な空気を蓄えておく。
- (3) 予備空気槽に貯蔵される空気量は、最高潜水深度で 4 分間程度の呼吸量に相当する空気量である。
- (4) 調節用空気槽は、空気の流れを整え、油分、水分を分離する。
- (5) 調節用空気槽は、1 月ごとに 1 回ドレーン抜きをする。

問 1 4 フーカー式潜水に必要な設備・器具の始業、終業点検等に関し、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 空気圧縮機は、始業前に回転部のカバーの損傷の有無を点検する。
- (2) 送気ホースは、始業前に耐圧テストを行い、耐圧性と空気漏れの有無を点検、確認する。
- (3) 圧力調整器は、始業前に吸・排気が完全に行えるかどうかを点検、確認する。
- (4) 予備ポンベは、終業後に水洗をして錆の発生及びキズや破損を点検し、内部の空気を完全に放出して保管する。
- (5) 潜降索は、始業前に強度と浮上停止深度の目印を確認する。

問 1 5 ヘルメット式潜水器に関し、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 内部圧力の調整は、ヘルメットの排気弁を頭で押して操作するほか、外部から手で操作することもできる。
- (2) ヘルメット後部には、電話線引込口が設けられている。
- (3) ヘルメットには、正面窓のほかに側面窓が設けられているが、正面窓には破損防止のため金属製の格子が取り付けられている。
- (4) ヘルメットの送気ホース取付口には逆止弁が組み込まれて、送気の逆流を防ぐ。
- (5) 送気ホースからヘルメットに入る空気量の調節は、潜水者自身が腰バルブを操作して行う。

問 1 6 スクーバ式潜水に使用する圧力調整器等に関し、次のうち誤っているものはどれか。

- ( 1 ) 圧力調整器は、ヨーク、ヨークスクリュー、第一段減圧部、中圧ホース、第二段減圧部等から構成されている。
- ( 2 ) 残圧計には、圧力調整器の第一段減圧部からポンペの高圧空気が送られる。
- ( 3 ) 高圧空気は、第一段減圧部で 1 MPa前後の中圧空気に減圧される。
- ( 4 ) 第一段減圧部で減圧された空気は、さらに、第二段減圧部で潜水深度に応じた圧力に減圧される。
- ( 5 ) 残圧計の表示値を正確に読むために、ゲージの針を真上から顔を近付けて見る。

問 1 8 事故等による緊急浮上に関し、次のうち誤っているものはどれか。

- ( 1 ) 救命胴衣を使用して浮上してはならない。
- ( 2 ) 緊急のため 1 回も浮上停止が行えない場合には、可能な限りゆっくりと浮上する。
- ( 3 ) 浮上後、潜水者の体をうごかさないようにして、速やかに再圧室に入れる。
- ( 4 ) 再圧は、緊急浮上後 3 分以内に開始することが望ましい。
- ( 5 ) 再圧室に入れたら、原則として、水深 1 5 m に相当する圧力まで加圧し、その後は減圧表に従って減圧する。

問 1 9 1 日 2 回の潜水業務を 1 回目 2 0 m、2 回目 2 6 m の深度で行うこととし、1 回目の潜水時間を 6 5 分とした場合、2 回目の潜水時間の限度は次のうちどれか。

( 本問及び問 2 0 は、業務間ガス圧減少時間等については別表 A 及び B を用いて算出すること。 )

- ( 1 ) 1 2 5 分
- ( 2 ) 1 3 5 分
- ( 3 ) 1 4 0 分
- ( 4 ) 1 5 0 分
- ( 5 ) 1 6 0 分

問 1 7 スクーバ式潜水器のポンペに関し、次のうち誤っているものはどれか。

- ( 1 ) 空気専用の潜水用ポンペに塗装される色彩表示はねずみ色である。
- ( 2 ) 潜水用ポンペは、内容積が 4 ~ 1 8 のものがあり、通常は K バルブ又は J バルブを取り付けて使用する。
- ( 3 ) 内容積 1 8 のポンペに圧力 2 0 MPa で充填されている空気の質量は、約 4 . 4 kg である。
- ( 4 ) リザーブバルブ機構は、ポンペ内の圧力が充填圧力の 2 0 % まで下がるとポンペ内の小容器から空気を補充する機構である。
- ( 5 ) ポンペは、材質によってスチールポンペとアルミポンペの 2 種類に分けられる。

問 2 0 問 1 9 に関して、2 回目の潜水時間を 4 5 分とした場合の浮上停止の位置と最低停止しなければならない時間は次のうちどれか。

- ( 1 ) 水深 6 m で 2 7 分、水深 3 m で 2 5 分
- ( 2 ) 水深 6 m で 2 6 分、水深 3 m で 2 2 分
- ( 3 ) 水深 6 m で 1 8 分、水深 3 m で 1 6 分
- ( 4 ) 水深 6 m で 8 分、水深 3 m で 1 6 分
- ( 5 ) 水深 3 m で 7 分

## (高気圧障害)

- 問 1 呼吸等に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 呼吸は、肺胞内空気と血液間及び血液と組織細胞間の2つの段階で行われる。
- (2) 肺胞におけるガス交換は、酸素分圧の高い肺胞内の酸素が酸素分圧の低い肺毛細管血へ入り込み、二酸化炭素はこの逆に出て行く拡散現象である。
- (3) 酸素は、ヘモグロビン(色素)と結合して全身の組織に運ばれ、体毛細管血と組織・細胞間でガス交換が行われる。
- (4) 血中の酸素分圧は動脈血よりも静脈血の方が高く、逆に二酸化炭素分圧は動脈血の方が高い。
- (5) 肺胞の全表面積は、両肺合わせて約70m<sup>2</sup>にも達する。
- 問 2 肺換気機能に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 肺活量は、一般に成人の男子で3000～4000m、女子で2000～3000m程度である。
- (2) 呼吸死腔とは、呼吸による換気のうち肺でのガス交換に関与しないで、気道などに残る分のことである。
- (3) 呼吸抵抗は、呼吸用マスクの使用時や潜水時において密度が大きくなった空気を呼吸する場合には増加する。
- (4) 大脳にある呼吸中枢が刺激されることによって、呼吸に関与する筋肉が伸縮する。
- (5) ゆっくりした深い呼吸は、呼吸死腔を減少させ、気道抵抗を低下させる。
- 問 3 循環器系に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 左心室から送り出される酸素や栄養素を含んだ血液は、大動脈から動脈、小動脈、毛細血管を通して全身に供給される。
- (2) 心臓は、自律神経により動いており、交感神経は心臓の働きを抑制し、副交感神経はその働きを促進する。
- (3) 心臓の1回の血液拍出量は、40～100m<sup>3</sup>であるが、運動時には150～200m<sup>3</sup>にもなる。
- (4) 脈圧は、心臓の心室が収縮し血液を送り出すときの血管内圧力(最大血圧)と心室が拡張したときの血管内圧力(最小血圧)の差で表される。
- (5) 心臓には収縮期と拡張期のほかに休止期があり、この3つを合わせて心臓の1周期という。
- 問 4 耳の障害等に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 潜降後2～3mの水深で耳に圧迫を感じる場合は、2～3秒同じ水深に止まって耳抜きをする。
- (2) 潜水作業では中耳と内耳の間の圧力差が生じる結果、耳の障害が起こる。
- (3) 内耳が損傷を起こすと、平衡機能に障害を起こし、めまいや眼球が左右に揺れる眼球しんとう等の症状が出る。
- (4) 耳の障害は、潜降により圧力が高くなったとき、耳管を閉じて外耳道と中耳腔の圧力が均衡すると生じない。
- (5) 風邪を引いたときなどは、咽喉や鼻の粘膜が腫れ耳抜きをしにくいので、潜水作業を避ける。
- 問 5 窒素酔いに関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 水深30～40m程度になると、潜水者が酒に酔ったような状態になるのは、呼吸する空気中の窒素の分圧が高くなり麻酔作用が出現するからである。
- (2) 潜水深度が30～40m程度から更に深くなるにつれ、窒素酔いはひどくなっていく。
- (3) 送気する空気の温度や水温が高くなると、窒素酔いを起こし易い。
- (4) 窒素酔いの症状は、精神活動が鈍くなり、気分が爽快になったり、意味もなく笑ったりすることがある。
- (5) 窒素酔いがひどくなると、手足がもつれ意のまま動かせなくなる。
- 問 6 酸素中毒に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 高い圧力下で純酸素を吸入すると、脳などの中枢神経系統が侵され、意識を失うことがある。
- (2) 酸素中毒は、送気中に二酸化炭素が多いときには起こりにくい。
- (3) 酸素中毒は、暑いとき又は寒いときに起こり易い。
- (4) 大気圧に近い圧力でも、長時間純酸素を吸入すると呼吸器に炎症を起こす。
- (5) 酸素中毒の発生には吸気の酸素分圧と吸入時間が大きく関係するが、人によって差があり、同一人でも日によってかなり異なる。

- 問 7 減圧症に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 減圧症の病型には、運動器型、呼吸循環器型、中枢神経型、皮膚型などがある。
  - (2) 皮膚症状には、かゆみや丘疹<sup>しん</sup>などがあるが、しばらくたつと消え、より重い症状に進むことはない。
  - (3) 中枢神経型の障害は、主として下半身の運動麻痺、知覚障害、排尿・排便障害を生じる。
  - (4) 呼吸循環器型の症状は、チョークスと呼ばれる息が詰まる感じが特徴である。
  - (5) 骨障害（圧不良性骨壊死<sup>え</sup>）は、減圧症をきちんと治療しなかったときなどに起こり易い。

- 問 8 窒素の体内への溶け込みに関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 地上の大気圧下でも、ヘンリーの法則に従い、身体には窒素が溶け込んでいる。
  - (2) 潜水すると、水深に応じ呼吸する空気の圧力が高くなり、窒素の分圧が上昇するので、窒素は外気肺 血液 組織という経路で、体内に吸収され組織に溶込んでいく。
  - (3) 窒素の体内への溶込みは、組織中の窒素分圧が外気の窒素分圧と平衡するまで続く。
  - (4) 呼吸する空気の窒素分圧が低下すると、組織に溶解している窒素は、体内外の窒素分圧が等しくなるまで体外へ排出される。
  - (5) 身体組織に溶け込んでいる窒素の排出が、不十分な場合は、血管中で気泡となって障害を起こすが、血管外の組織においては気泡をつくることはない。

- 問 9 潜水作業者の健康管理に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 圧力の作用を大きく受ける耳や呼吸器などの検査を重点とした健康診断を行う。
  - (2) 関節部のエックス線による検査は、股関節、肩関節、膝関節などが対象となる。
  - (3) 減圧症の再圧治療が終了した後の体内には、過剰な窒素はすべて消失するので、後遺症のおそれはない。
  - (4) 重い減圧症にかかったことのある者や呼吸器、循環器の弱い者は、潜水業務に従事させない。
  - (5) 減圧症等が治ったと思われても、潜水業務への就業の可否は、医師の判断により決定すべきである。

- 問 10 救急蘇生法<sup>そ</sup>に関し、次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 呼吸は、安静時成人で1分間に6～8回行われており、呼吸があるかないか、みぞおちに手を軽くあてて動きをみて確認する。
  - (2) 救急蘇生を行う必要のある場合には、心臓が止まっているか否かを確認することが重要で、その方法として頸動脈<sup>けい</sup>に触れる方法がある。
  - (3) 人工呼吸を行うためには、気道の確保が重要で、そのためには体を水平にして、額を下に押しと同時に顎<sup>あご</sup>を上<sup>あご</sup>に引き上げるようにする。
  - (4) 人工呼吸は、5秒に1回の頻度で息の吹き込みを繰り返し、1分間に12回程行う。
  - (5) 気道が閉塞した状態で空気を吹き込むと、吹き込んだ空気が胃に流入し、胃が膨張してその内容物が口の方へ逆流することがある。

## ( 関係法令 )

問 1 1 潜水作業用の設備・器具に関し、法令上、誤っているものは次のうちどれか。

- ( 1 ) 潜水器は、法令で定められている構造規格を具備しなければ譲渡し、貸与し又は設置してはならない。
- ( 2 ) 再圧室は、法令で定められている構造規格を具備しなければ譲渡し、貸与し又は設置してはならない。
- ( 3 ) 送気式潜水に用いる空気圧縮機は、1週間に1回以上点検を行わなければならない。
- ( 4 ) 自給気式潜水に用いる水深計は、3月に1回以上点検を行わなければならない。
- ( 5 ) 自給気式潜水に用いるポンベは、6月に1回以上点検を行わなければならない。

問 1 2 フーカー式潜水で、潜水作業者ごとに備える予備空気槽の内容積  $V$  ( ) を計算する次式の  $\square$  内の A から C に入れる用語又は数値の組合せとして、法令上、正しいものは ( 1 ) ~ ( 5 ) のうちどれか。ただし、潜水深度の単位は m、圧力の単位は MPa である。

$$V = \frac{\square A ( 0.03 \times \square B + 0.4 )}{\square C}$$

- |       | A         | B       | C         |
|-------|-----------|---------|-----------|
| ( 1 ) | 予備空気槽内の圧力 | 40      | 最高の潜水深度   |
| ( 2 ) | 60        | 最高の潜水深度 | 予備空気槽内の圧力 |
| ( 3 ) | 最高の潜水深度   | 60      | 予備空気槽内の圧力 |
| ( 4 ) | 40        | 最高の潜水深度 | 予備空気槽内の圧力 |
| ( 5 ) | 予備空気槽内の圧力 | 60      | 最高の潜水深度   |

問 1 3 労働者に対し、法令上の特別の教育を行うことが義務づけられている業務は、次のうちどれか。

- ( 1 ) 潜水用空気圧縮機を運転する業務
- ( 2 ) 潜水器を点検する業務
- ( 3 ) 再圧室を操作する業務
- ( 4 ) 連絡員の業務
- ( 5 ) 水深 10 m 未満の場所における潜水業務

問 1 4 潜水業務の種類と潜水作業者に携行、着用させなければならない物との組合せとして、法令上、正しいものは次のうちどれか。

- ( 1 ) 手押ポンプから送気を受けて行う潜水業務 ( 通話装置がない場合 ) ..... 信号索、水中時計、コンパス、鋭利な刃物
- ( 2 ) 空気圧縮機から送気を受けて行う潜水業務 ( 通話装置がない場合 ) ..... 信号索、水中時計、水深計、鋭利な刃物
- ( 3 ) 空気圧縮機から送気を受けて行う潜水業務 ( 通話装置がある場合 ) ..... 水中時計、水深計、浮上早見表
- ( 4 ) ポンベ ( 潜水作業者に携行させたポンベを除く。 ) から給気を受けて行う潜水業務 ( 通話装置がない場合 ) ..... 信号索、水中時計、水深計
- ( 5 ) スクーバ式潜水器による潜水業務 ..... 水中時計、水深計、残圧計、救命胴衣

問 1 5 空気圧縮機による送気式の潜水業務を行うとき、次に掲げる潜水器具のうち、潜水前の点検が義務づけられていないものはどれか。

- ( 1 ) さがり綱
- ( 2 ) 水中時計
- ( 3 ) 信号索
- ( 4 ) 送気管
- ( 5 ) 潜水器

問16 潜水業務の作業時間等については、高気圧作業安全衛生規則別表第2（潜水業務用時間表）により基準が示されているが、この表に関し、法令上、正しいものは次のうちどれか。

- (1) この時間表は、水深10m以上の場所における潜水業務に適用され、1日についての潜水回数の制限が定められている。
- (2) 潜水時間とは、潜水作業者が水中において潜水作業を開始してから浮上するまでの時間と定められている。
- (3) 潜水作業者の体内のガス圧係数を減少させるため潜水業務間に与える休息時間は、潜水業務用時間表に示されている業務間ガス圧減少時間を超えてはならない。
- (4) 浮上を停止する水深と時間が定められており、この浮上を停止する時間が長いほど業務間ガス圧減少時間は短くなっている。
- (5) 業務終了後ガス圧減少時間として定められている時間以上の時間を、1日の最終の浮上を終了した後引き続き与えなければならない。

問17 連絡員の配置とその実施事項に関し、法令上、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 潜水方式に関係なく、潜水作業員2人以下ごとに1人の連絡員を配置する。
- (2) 潜水作業員と連絡して、その者の潜降及び浮上を適正に行わせる。
- (3) 送気調節用のバルブ等を操作する者と連絡をして、潜水作業員に必要な量の空気を送気させる。
- (4) 送気設備等の事故により潜水作業員に危険又は健康障害の生ずるおそれがあるときは、速やかに潜水作業員に連絡する。
- (5) ヘルメット式潜水器を用いて行う潜水業務にあつては、潜降直前に潜水作業員のヘルメットが、かぶと台に結合されているかどうかを確認する。

問18 潜水業務に常時従事する労働者に対して、特別の項目による健康診断を実施することが義務づけられているが、実施項目に該当しないものは次のうちどれか。

- (1) 既往歴及び高気圧業務歴の調査
- (2) 四肢の運動機能の検査
- (3) 尿中の糖及び蛋白の有無の検査
- (4) 視力の測定
- (5) 肺活量の測定

問19 法令上、潜水業務への就業が禁止されていない疾病は次のうちどれか。

- (1) 貧血症
- (2) 白内障
- (3) アルコール中毒
- (4) リウマチス
- (5) 肥満症

問20 再圧室に関し、法令上、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 水深10m以上の場所における潜水業務を行うときは、再圧室を設置し又は利用できる措置を講じなければならない。
- (2) 再圧室を使用するときは、出入りに必要な場合を除き、主室と副室との間の扉を閉じ、かつ、それぞれの内部の圧力を等しく保たなければならない。
- (3) 再圧室を使用したときは、そのつど、加圧及び減圧の状況を記録しなければならない。
- (4) 再圧室については、設置後3月を超えない期間ごとに一定の事項について点検しなければならない。
- (5) 必要のある者以外の者の再圧室設置場所への立入りを禁止し、その旨を見やすい箇所に表示しなければならない。